



上米塚の延命地藏堂と供養碑



上米塚の地藏堂のわきだち

にこの頃、この位置に創建されたとみてもよいか知れない。泉現寺には阿弥陀尊を祭ってあるが、御丈は五一センチ、地藏尊は文化六年の風土記にあるのが御丈二尺八寸、現在二仏体が並んでいる。大きな方の御丈が七五センチで、ほぼそれに近く、他の一体は六六センチである。

この地藏堂には地藏尊二体の他に、えんま大王その他十二神、七七センチの高さの上部を赤顔、白顔に塗った異様な仏像などが多数納めてある。

この境内には釈種浄海の享保頃（一七一七～一七二三）の供養塔や、廿三夜塔、庚申塔、大日塔、金毘羅塔などと、多くの板碑が並んでおり、由緒の浅くないことを物語っている。

3、上米塚新田の開発
 旧鶴沼川が羽黒下より佐布川方面に向い、さらに宮川と合して北流し